

NGP、令和8年8月千葉豪雨発生を受けて水害対策本部を設置

千葉県内3ヵ所に専用ヤードを設置し、被災地復興を支援

8月13日から14日にかけて、関東甲信越地方では上空の強い寒気と暖かく湿った空気の影響により、大気の状態が非常に不安定となりました。これにより、千葉県では13日の夕方以降、線状降水帯が発生し、記録的な大雨となりました。消防庁の報告(8月27日時点)によると、今回の大雨による千葉県・埼玉県合計の被害状況は、死者13人、行方不明者1人、負傷者46人、住家被害4,635棟に上っています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、尊い命を落とされた方のご冥福をお祈り申し上げます。

NGPは大雨被害の発生を受け、8月14日に藤原庸正副理事長を本部長として、「災害対策本部」を設置しました。そして千葉県内3ヵ所に専用ヤードを設置し、8月19日より被災地の復旧及び生活再建を支援するため、数千台に及ぶとみられる被災車両の迅速な引き上げ活動を開始しています。

近年、電動ブレーキが普及した影響で、



引き上げた被災車両が並ぶ市原ヤード

水没した車両のパーキングブレーキが解除できなくなるケースが多く、被災車両の搬出に労力を要します。また、一般家庭から搬出する際には、積載車では入れない細い道を経由することが多く、さらに作業時間が長くなる傾向にあります。被災地の一日も早い復興を支援するため、各ヤードでは南関東支部及び北関東支部の組合員がレッカー車や積載車を持ち込み、組合職員とともに一致団結して作業に臨んでいます。また、被災車両の引き上げ作業では、NGPが自社開発した「水害車両管理システム」を活用することで、引き上げる車両の依頼

状況や回収進捗を保険会社とリアルタイムで共有することができます。これにより、現場からの依頼を受けて、回収・搬入するまでのリードタイムの大幅な短縮が可能となり、二次被害の防止や地域の早期復旧に貢献することができます。

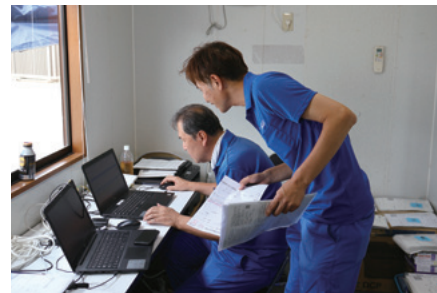
NGPはこれまで全国各地で災害が発生した時には迅速に対策本部を設置するとともに、各エリアの加盟事業者を中心として被災地支援に取り組んできました。NGPは被災地の一日でも早い復興を支援するため、今後も迅速に対応してまいります。



タブレットやスマートフォンで撮影した被災車両の画像を、NGPが自社開発した「水害車両管理システム」に登録。損害保険会社とリアルタイムで情報を共有できるため、依頼から被災車両引き取りまでの迅速化を実現している



組合員各社が積載車やレッカー車をヤードに持ち込み、被災車両の引き取りに臨む



ヤード内に設置した事務所では、損害保険会社や車両引取先との調整や引き取った車両の情報管理などを実施

展示内容から見る中国市場のいま

中国・南部エリアで最も影響力のある国際的な自動車アフターマーケット見本市である第11回オートアフターマーケット広州（Auto Aftermarket Guangzhou AAG）が8月19～21日、広州保利世貿博覧館（PWTC）にて開幕されました。

広大な展示会場は商用車、交換部品、アクセサリ&カスタマイズ、リサイクル部品などのエリアに分かれ、様々な製品が展示されます。会場内は日本の展示会においても目にするような、中国・台湾などのアジア系パーツ企業ブースが半分以上を占めており、最新車種のパーツやアクセサリのほか、旧車のディストリビューターや燃料計、ドラムブレーキなど正規品が出回りにくいパーツを製造・販売する企業が出展していました。

中国と言えば電気自動車と思われるところですが、ガソリン車のニーズの高さをうかがうことができました。これらの展示内容全体から「技術などの研究・開発力のアピールより、まずは今売れるものを徹底的に売る」という商売気質を感じさせられました。

一般来場客はカスタマイズ系エリアに集まっており、特徴的なカスタムカーや、エアロパーツやホイール、シートなどの内外装ドレスアップ、サスペンションなどの走



行性能を高める定番のカスタムパーツが豊富に紹介されました。また、近年中国で人気が高まっているアウトドアやキャンプ需要を反映し、ルーフテントの搭載やオフロード仕様にしたカスタム車両も多数展示されており、一般的な車好きからレジャー目的の家族連れまで、多様なニーズに応える派手な車両に多くの来場者が熱心に見入っていました。

EVの発展による広州のこれから

かつて中国・広州といえば、長年にわたりトヨタ、ホンダ、日産といった日系カーメーカーが大規模な工場を構え、多数の日本人駐在員が行き交う自動車産業の一大拠点でした。しかし、中国産の電気自動車の

急激な普及の波に飲まれ、日系メーカーでは工場の縮小や中国人作業員のリストラが相次ぎ、現在では縮小傾向にあります。日本のカーメーカー工場で働いていたというある企業の担当者は「中国の電気自動車メーカー工場勤務の給与はかなり低い。我々は自分たちの首を絞めてしまった」と嘆いていました。

不況に苦しむ中国ですが、広州では「今売れるもの」を追い求める逞しさと、EV化の荒波に取り残される現場の悲哀が複雑に交錯していました。世界最大の自動車市場の最前線・広州が示していたのは、凄まじいスピードで変化する中国アフターマーケットの壮絶なリアルそのものと言えるでしょう。



家庭用コンセントにより充電できる電気自動車充電器



日本のアニメをモチーフにしたカスタムカーは注目の的



高級車をカスタマイズするのも人気だが車検は通らない



旧車のリサイクルパーツなども多く展示



コントローラーでピストンシリンダー内部を検査できるカメラシステム



テスラのソケット部から電力を得ることができるクーラーボックス

研究に参加する学生に、 自動車リサイクルの現場を学ぶ場を提供

産学共同研究の
詳細はこちら



NGPでは、富山県立大学、明治大学との産学共同研究を通じて、自動車リサイクル部品の環境価値に関する研究を進めています。その一環として8月24・25日の2日間、NGPのサステナブル総務委員会委員長である岸本恭秀氏が社長を務める(株)桃太郎部品（岡山県岡山市）において、工場調査を実施しました。

2013年から取り組んでいる本研究では、自動車リサイクルの実際の現場を学生に見て、体感してもらうことを大切にしています。研究に参加する学生が入れ替わることから、毎年工場調査の機会を設け、自動車などのように解体され、部品や資源として再利用されていくのかを学ぶ場を提供しています。今回の調査には、富山県立大学から学生2人・教員2人、明治大学から学生2人・教員1人、NGPから技術顧問1人・

本部2人が参加しました。

初日は、エアバッグの適正処理、オイルやフロンガスの回収から、リサイクル部品の生産、資源リサイクル、重機による車両解体、プレスまで一連の自動車リサイクル工程を見学しました。現場作業について学ぶだけでなく、研究に必要なデータをさらに蓄積することも、今回の調査の目的の一つです。リサイクル部品の生産工程におけるCO₂排出量を把握するため、各工程で使用する電力量を測定する電力ロガーを設置するとともに、作業工程の動画を撮影しました。

2日目には、自動車部品を素材ごとに分解し、それぞれの重量を測定しました。実際の部品を構成する素材や重量に関するデータを収集することで、これまで蓄積してきた調査データの充実を図りました。



見学の最後に実施した質疑応答では、学生からリサイクル工程や現場での取り組みについてさまざまな質問が寄せられ、自動車リサイクルへの理解をさらに深める機会となりました。

NGPでは今後も学生が自動車リサイクルの現場に触れ、実社会に根差した研究を行う機会を提供するとともに、現場での調査データを継続的に蓄積することで、リサイクル部品の利用に伴うCO₂削減効果の数値の更新・精度向上を図り、リサイクル部品の環境価値を発信し続けてまいります。

自動車リサイクル工場の映像を通じて、子ども達に 資源循環やリユース・リサイクルの大切さを伝える

NGPは8月6日、キッズガリレオ福岡駅前校（福岡県福岡市）の子どもたちを対象に、バーチャル工場見学会を開催しました。

NGPは自動車リサイクルに携わる事業者として、使用済み自動車のリユース部品としての再利用及び素材としての再資源化などの資源循環に向けた業界の取り組み、そして環境を守ることの大切さを次世代に伝えることも重要な役割の一つと考え、子どもたちへの環境教育・教育支援活動に取り組んでいます。

キッズガリレオは、放課後の時間に学習やさまざまな体験の機会を提供するアフタースクールです。今回は自動車リサイクル

を通じて、子どもたちに環境や資源について考えてもらうことを目的として、バーチャル工場見学会を実施しました。

NGPのバーチャル工場見学会は、Web会議システムを活用し、自動車リサイクル工場の映像を見ながら、使用済み自動車などのように処理され、部品や資源として再び活用されていくのかを学ぶことができます。当日は、自動車リサイクルの仕組みや工場での作業について、動画やクイズを交えながら紹介しました。中でも重機で車体を解体する映像は、子どもたちから大きな反応があり、興味深そうに画面を見入る様子が印象的でした。また、質疑応答では、見学



を通じて感じた率直な疑問が寄せられるなど、自動車リサイクルへの関心が深まっている様子がうかがえました。

NGPは今後も、子どもたちに資源循環やリユース・リサイクルの大切さを伝える環境教育・教育支援活動に取り組んでまいります。

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和8年7月： **2,017t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和8年7月： **0.2t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

第5回スキャンツールセミナーを開催

スキャンツールの機能や故障診断の手順を習得し、
商品品質のさらなる向上へ

NGP協同組合は7月27・28日の2日間、あいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センター（静岡県裾野市）で、第5回スキャンツールセミナーを開催しました。

講習では、DTCコードの表示と消去、フリーズフレームデータの表示、データモニターの表示、アクティブテスト、作業サポートなど、スキャンツールの機能について解説するとともに、実車を用いて各機能を確認しました。また、故障診断の手順として、修理書及び配線図の見方や不具合現象の確認方法、不具合系統

の特定方法などについて説明し、実際にエンジン系統、エアコン系統、ドアロック系統それぞれの不具合原因の切り分けについて、実習で学びました。

2日間の講習を終えて、(株)オートパーツ幸城の山根祐樹さんは「日常業務でスキャンツールは、ハイブリッドバッテリーのデータ確認用として使用し、エンジンの状態をデータで確認することはありませんでした。今後はスキャンツールを部品の良否判定や、エンジンデータの確認などに活用することで、お客さまに安心していただける“よりよい商品”を生



産できるように精進してまいります」と、講習で得た知識を日々の業務に活かし、商品品質のさらなる向上につなげていく考えです。

第37回経営者研修会を開催

経営者としての心構えを学び、会社及び業界の発展につなげる

NGP協同組合は8月24～27日の4日間、BumB東京スポーツ文化館（東京都江東区）で第37回経営者研修会を開催しました。

経営者研修会とは、全国の組合員から経営者・幹部メンバーが参加し、NGPの歴史や各委員会の取り組み、NGP三大信条の意義、NGPグループの一員として果たすべき役割、経営者として理解すべき企業会計やコンプライアンス、業界課題などについての知識を学ぶことを目的としたものです。1日目には小林信夫理事長から経営者としての心構えについて、講話を受けました。その中で小林理事長は、NGPと出会ったことで会社

としてもひとりのビジネスマンとしても成長できたという自身の経験を語った上で、「時代によって考え方ややり方を変えなければいけないところは確かにあります。しかし、根本にある考え方を忘れてはいけません。NGPの三大信条は基本中の基本です。会社の業務で何か問題が起きたり、何か悩んだ時には一度立ち止まって、その理念を思い起こしていただきたい」と、経営者として自身が常に心がけていることを伝えました。

4日間の研修を終えて、(有)サン・アールの佐林卓さんは「研修最終日を終えて、経営者として自社で自分がすべきことをしっかり行動に移そうと思いました。



前日に書いた決意表明、目標、取り組みを実行に移すのも、それを提案するのも、会社を大きく変化させることができる力があるのも、すべて自身であるという覚悟もできました」と、経営者としての決意を新たにしています。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>